

## 令和5年度「家庭基礎」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
1	普通科・美術科	家庭	家庭基礎	2	必履修
教科書	「家庭基礎 つながる暮らし 共に創る未来」教育図書				
副教材	県版学習ノート、家庭科55デジタル+				

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	持続可能な社会をつくる暮らしの担い手として必要なことの概要が説明できる。	協働的に学ぶことを意識し、コミュニケーション力を付けることができる。 学んだ知識を家庭で活用する機会を持ち続けることができる。	二高ICEモデルを活用し、取り組み方・考え方・生き方について深めることができる。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	4	3	3
主な評価方法	1学期・2学期・学年末考査の結果		
	実習等の自己評価・相互評価・教師評価		
		google classroom「課題」を活用した記述課題	
			google classroom「質問」を活用した記述課題
		「振り返りのたまご」形式での学びの振り返り	

履修上の注意及び学習のアドバイス	<p>①「振り返り」を大切にしています。何を学んだのか、何ができるようになったのか「振り返りの卵」に丁寧に記述をしていきましょう。</p> <p>②A4サイズ大学ノートを準備してください。</p> <p>③chromebook (googleclassroom・forms・サイト) を使用します。授業時間外に、事前課題や事後まとめを実施します。主体的に効率よく、思考を意識し取り組みましょう。</p> <p>④記述の評価ルーブリックには、二高ICEモデル観点で作ったものを使用します。</p> <p>⑤調理実習の際は、エプロン・三角巾の準備、爪切りをして、衛生面に気を付けてください。</p>
------------------	---

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

## 令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	オリエンテーション 学校家庭クラブ活動 自立度チェック A編1 生活設計 ①自分の将来を見通そう 2 青年期と家族 ①これからの人生に向かって ②家族・家庭とは何だろう？	・中学校までの学びを振り返り、授業の目標を見通す。 ・自立度チェックに取り組むことで、自分の現状をメタ認知する。 ・ブレインライティングを行い、自立のために必要なことの気づきをまとめる。 ・自分の将来を見通す。		* 自立へ向かい、どのようなことができるようになりたいと目標設定しますか？
	5	③これからの家庭生活と社会 B編2 衣生活 ①衣服のはたらき ②衣服ができるまで ③衣服の計画と管理	・家族を見つめる新聞レポートに取り組み、現代の家族問題を列挙する。 ・家族が活用できる「あずま袋」作成のため、必要な材料や用途を指摘する。 ・家族での衣替えに取り組み、報告する。		* 新聞を通して考えた「現代の家族の課題」とは何でしょうか？
	6	④これからの衣生活 B編1 食生活 ⑤おいしく食べるために A編3 保育 ①子どもの成長を見つめる 学校家庭クラブ活動	・エコパックとして活用する和手ぬぐいのあずま袋を製作する。(並縫い、ボタン付け) ・学校家庭クラブ活動の1つとして、「二高弁当の日」に取り組む。	1学期 期末	* 持続可能な衣生活へ向けて、環境や社会への影響に配慮した消費生活とは？
	7	②子どもの生活と保育 ③これからの子育て環境 自立度チェック B編1 食生活 ①「食べる」ということ ホームプロジェクト	・チャイルドビジョンを使った体験をし、子どもの視野を感じる。 ・子どもの視野や行動の特徴を踏まえ、子どもの安全について場面を指摘する。 ・家族の生活を見渡し、課題を見だし、解決のための仮説を設定する。 ・課題解決のアイデアをブレインライティングで共有する。		* 社会の一員として、子どもと関わり育んでいくために、今のあなたがすべきことは？  * 家族の生活を一層よくするためには？
第2学期	9	D編ホームプロジェクト A編4 高齢期 ①高齢期ってどういう時期？ ②高齢化する日本を生きる 5 共生社会 ①共生とは？ ②ノーマライゼーションとは	・ホームプロジェクトの振り返りを行う。(振り返りチャートを使う) ・ホームプロジェクトの相互共有し、次回のテーマを再設定する。 ・本を協同的に読む手法(ABD)で本「認知症とともに生きる」を読む。		* 地域・社会の一員として、今のあなたができることは？
	10	B編1 食生活 ②私たちが食べているもの ③安全に食べるために	・動画視聴と実習計画表作成で手順を配列する。 ・家庭実習を実施し、効率的で衛生的な調理手順の再構成をする。 ・家庭科技術検定食物調理4級に取り組み、自分に技術を評価する。		* 持続可能な食生活のために、あなたが今できることは？
	11	④健康に食べるために ⑤調理の基礎 ⑥ずっと食事を楽しむために	・異文化献立の調理実習を行い、文化の違い・調理法の特徴を記述する。 ・りんご1個を皮むきし、廃棄率計算とスピードを検証する。 ・食品ロスに関する問題を討議する。	2学期 期末	* 食を通して異文化を見つめてみましょう。
	12	A編3 保育 ②子どもの生活と保育 ③これからの子育て環境 D編 ホームプロジェクトに取り組み	・くまもと親の学びプログラムを体験し、親になるということを現在の自分と関係づける。 ・本「お母さんは命がけてあなたを生みました」内田美智子著を集団読書し、これまでの学習内容と関連づけて記述する。 ・家庭のおせち料理調査を報告する。 ・おせち料理の家庭実習に取り組み、説明する。		* 社会の一員として、子どもと関わり育んでいくために、今のあなたがすべきことは？  * 食文化を伝承するためには、どんなことができますか？
第3学期	1	C編1 経済計画 ①家計とお金の将来を考えよう	・ホームプロジェクト発表を通して、日本の食文化について表現する。 ・パンフレット「社会への扉」を使ったクイズに取り組み、最近の問題概要を知る。		* 消費者市民社会を実現していくために、あなたができることは何ですか？
	2	2 消費生活 ①何をどうやって買う？ ②かしこい消費者になろう C編3 環境 ①環境問題を考える ②私たちにできること B編3 住生活 ①「住まい」とは ②安全な住まい	・「生活豆知識」を使ってKP(紙芝居プレゼンテーション)ポスターツアーを実施する。 ・フェアトレード食品を味わい、消費行動と社会参加を関係づける。 ・住宅内事故、通風と換気について具体的に記述する。	学年末	* 地域の実状にあった、仮設住宅の広さと間取りとは？
	3	③快適な住まい ④住まいの課題と未来の暮らし 自立度チェック A編 生活設計 ①自分らしい生き方の実現	・年度当初に作成した将来の見通しを振り返り、1年間の学びを生かして見直しを見直す。 ・1年間の学びを「マイグラフィックシラバス」で表現する。		* 授業によってどのような力がついたと実感しているか？

※行事等で変更になる場合があります。

## 令和5年度「科学家庭」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
1	理数科	家庭	科学家庭	2	必履修
教科書	「家庭基礎 つながる暮らし 共に創る未来」教育図書				
副教材	県版学習ノート、家庭科55デジタル+				

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	持続可能な社会をつくる暮らしの担い手として必要なことの概要が説明できる。	協働的に学ぶことを意識し、コミュニケーション力を付けることができる。 学んだ知識を家庭で活用する機会を持ち続けることができる。	二高ICEモデルを活用し、取り組み方・考え方・生き方について深めることができる。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	4	3	3
主な評価方法	1学期・2学期・学年末考査の結果		
	実習等の自己評価・相互評価・教師評価		
		google classroom「課題」を活用した記述課題	
			google classroom「質問」を活用した記述課題
		「振り返りのたまご」形式での学びの振り返り	

履修上の注意及び学習のアドバイス	<p>①「振り返り」を大切にしています。何を学んだのか、何ができるようになったのか「振り返りの卵」に丁寧に記述をしていきましょう。</p> <p>②A4サイズ大学ノートを準備してください。</p> <p>③chromebook (googleclassroom・forms・サイト) を使用します。授業時間外に、事前課題や事後まとめを実施します。主体的に効率よく、思考を意識し取り組みましょう。</p> <p>④記述の評価ルーブリックには、二高ICEモデル観点で作ったものを使用します。</p> <p>⑤調理実習の際は、エプロン・三角巾の準備、爪切りをして、衛生面に気を付けてください。</p>
------------------	---

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

## 令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	オリエンテーション 学校家庭クラブ活動 自立度チェック A編1 生活設計 ①自分の将来を見通そう 2 青年期と家族 ①これからの人生に向かって ②家族・家庭とは何だろう？	・中学校までの学びを振り返り、授業の目標を見通す。 ・自立度チェックに取り組むことで、自分の現状をメタ認知する。 ・ブレインライティングを行い、自立のために必要なことの気づきをまとめる。 ・自分の将来を見通す。		* 自立へ向かい、どのようなことができるようになりたいと目標設定しますか？
	5	③これからの家庭生活と社会 B編2 衣生活 ①衣服のはたらき ②衣服ができるまで ③衣服の計画と管理	・家族を見つめる新聞レポートに取り組み、現代の家族問題を列挙する。 ・家族が活用できる「あずま袋」作成のため、必要な材料や用途を指摘する。 ・家族での衣替えに取り組み、報告する。		* 新聞を通して考えた「現代の家族の課題」とは何でしょうか？
	6	④これからの衣生活 B編1 食生活 ⑤おいしく食べるために A編3 保育 ①子どもの成長を見つめる 学校家庭クラブ活動	・エコバックとして活用する和手ぬぐいのあずま袋を製作する。(並縫い、ボタン付け) ・学校家庭クラブ活動の1つとして、「二高弁当の日」に取り組む。	1学期 期末	* 持続可能な衣生活へ向けて、環境や社会への影響に配慮した消費生活とは？
	7	②子どもの生活と保育 ③これからの子育て環境 自立度チェック B編1 食生活 ①「食べる」ということ ホームプロジェクト	・チャイルドビジョンを使った体験をし、子どもの視野を感じる。 ・子どもの視野や行動の特徴を踏まえ、子どもの安全について場を指摘する。 ・家族の生活を見渡して、課題を見だし、解決のための仮説を設定する。 ・噛む力について実験を行い、ヒトの発達との関連を調べる。 ・課題解決のアイデアをブレインライティングで共有する。		* 社会の一員として、子どもと関わり育んでいくために、今のあなたがすべきことは？  * 家族の生活を一層よくするためには？
第2学期	9	D編ホームプロジェクト A編4 高齢期 ①高齢期ってどういう時期？ ②高齢化する日本を生きる 5 共生社会 ①共生とは？ ②ノーマライゼーションとは	・ホームプロジェクトの振り返りを行う。(振り返りチャートを使う) ・ホームプロジェクトの相互共有し、次回のテーマを再設定する。 ・本を協同的に読む手法(ABD)で本「認知症とともに生きる」を読む。		* 地域・社会の一員として、今のあなたができることは？
	10	B編1 食生活 ②私たちが食べているもの ③安全に食べるために	・動画視聴と実習計画表作成で手順を配列する。 ・家庭実習を実施し、効率的で衛生的な調理手順の再構成をする。 ・家庭科技術検定食物調理4級に取り組み、自分に技術を評価する。		* 持続可能な食生活のために、あなたが今できることは？
	11	④健康に食べるために ⑤調理の基礎 ⑥ずっと食事を楽しむために	・異文化献立の調理実習を行い、文化の違い・調理法の特徴を記述する。 ・りんご1個を皮むきし、廃棄率計算とスピードを検証する。 ・食品ロスに関する問題を討議する。	2学期 期末	* 食を通して異文化を見つめてみましょう。
	12	A編3 保育 ②子どもの生活と保育 ③これからの子育て環境 D編 ホームプロジェクトに取り組もう	・くまもと親の学びプログラムを体験し、親になるということを現在の自分と関係づける。 ・本「お母さんは命がけてあなたを生きました」内田美智子著を集団読書し、これまでの学習内容と関連づけて記述する。 ・家庭のおせち料理調査を報告する。 ・おせち料理の家庭実習に取り組み、説明する。		* 社会の一員として、子どもと関わり育んでいくために、今のあなたがすべきことは？  * 食文化を伝承するためには、どんなことができますか？
第3学期	1	C編1 経済計画 ①家計とお金の将来を考えよう	・ホームプロジェクト発表を通して、日本の食文化について表現する。 ・パンフレット「社会への扉」を使ったクイズに取り組み、最近の問題概要を知る。		* 消費者市民社会を実現していくために、あなたができることは何ですか？
	2	2 消費生活 ①何をどうやって買う？ ②かしこい消費者になろう C編3 環境 ①環境問題を考える ②私たちにできること B編3 住生活 ①「住まい」とは ②安全な住まい	・「生活豆知識」を使ってKP(紙芝居プレゼンテーション)ポスターツアーを実施する。 ・フェアトレード食品を味わい、消費行動と社会参加を関係づける。 ・住宅内事故、通風と換気について具体的に記述する。	学年末	* 地域の実状にあった、仮設住宅の広さと間取りとは？
	3	③快適な住まい ④住まいの課題と未来の暮らし 自立度チェック A編 生活設計 ①自分らしい生き方の実現	・住まいを借りることを想定する。 ・年度当初に作成した将来の見通しを振り返り、1年間の学びを生かして見直しを見直す。 ・1年間の学びを「マイグラフィックシラバス」で表現する。		* 授業によってどのような力がついたと実感しているか？

※行事等に変更になる場合があります。

## 令和5年度「フードデザイン」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
2	普通科	家庭	フードデザイン	2	選択
教科書	フードデザイン Food Changes LIFE (教育図書)				
副教材	なし				

	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
学習の目標	・ 持続可能な食生活の担い手として必要なことの概要が説明できる	・ 協働的に学ぶことを意識し、コミュニケーション力を付けることができる ・ 学んだ知識を家庭で活用する機会を持ち続けることができる	・ 二高 I C E モデルを活用し、自分と家族の将来にわたる健康につなげ、「食べ方=生き方」を深めることができる

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合			
主な評価方法	1 学期・2 学期・学年末考査の結果		
	実習等の自己評価・相互評価・教師評価		
		google classroom「課題」を活用した記述課題	

履修上の注意及び学習のアドバイス	<p>①調理実習を行いますので、実習費5,000円を徴収します。</p> <p>②調理実習の際は、調理室にて行います。必ずエプロン・三角巾の持参、爪切りを行い、衛生面を整えてください。</p> <p>③chromebookを使用して課題の提出や振り返り等を行います。授業には必ず持参しましょう。また、主体的に効率よく、思考を意識して課題等に取り組みましょう。</p>
------------------	---

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	I フェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	C フェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	E フェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

## 令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	第1章 健康と食生活 1 食事の意義と役割 2 食を取り巻く現状 第4章 調理してみよう	・1年生の学びを振り返り、授業の目標を見通す。 ・自分の目標を共有することを通し、技術習得に必要なことの気づきを広げる。		切り方の基本を身に付けよう
	5	第2章 栄養素と食品 2 各栄養素のはたらき  3 食品とその特徴	・梅の収穫に取り組み、活用例を列挙する。 ・保存に適した素材や取り扱いの方法を指摘する。 ・家庭で実践に取り組み、報告する。 ・2品の作り手順を考え、実践する。		保存食の作り方を身に付けよう
	6	1 栄養素と消化・吸収  第4章 調理してみよう 日常食・和風献立 日常食・中国料理	・2品の作り手順を再考し、実践する。 ・衛生面効率面を考慮して再考する。 ・学校クラブ活動の1つとして、「二高おにぎり週間」に取り組む。	1学期 期末	2品を手順よく作ろう
	7	実践編 献立と調理 1 ライフステージと食事計画 2 献立作成  第4章 調理実習 日常食・洋風料理	・家族に合った朝食について、配慮視点を想像する。 ・小麦粉を使った調理例から、気温との関係を指摘する。 ・課題解決のアイデアをブレインライティングで共有をする。		誰かのための朝食献立を考えよう
第2学期	9	実践編 献立と調理 1 ライフステージと食事計画 2 献立作成 第6章 食育と食育推進活動 2 食文化を見つめる	・「朝食づくり」の振り返りを行う。(振り返りチャートを使う) ・振り返りチャートの相互共有し、次回のテーマを再設定する。 ・日本料理について、英語でプレゼンテーションする。		日本食を英語で紹介しよう
	10	第5章 各国料理とコーディネート 2 テーブルコーディネート 1 料理の様式と食卓作法 実践編 献立と調理 1 ライフステージと食事計画 2 献立作成	・異文化献立の調理実習を行い、文化の違いや調理法の特長を記述する。 ・17歳の1食分の献立作成し、手順を配列する。 ・2品ずつ実習し、効率的で衛生的な調理の全体手順を再構成する。 ・50分で4品調理に取り組み、自分の技術を評価する。		17歳1食分の献立(弁当)を立てて作ろう
	11	第2章 栄養素と食品 3 食品とその特徴 第3章 食品の選択と取り扱い	・柿の皮むきで昨年の自分の技術と比較し、自分の廃棄率とスピードを検証する。 ・干し柿作りに取り組み、カビとの関係を整理する。	2学期 期末	外国の献立の作り方を紹介する動画を作ろう
	12	第2章 栄養素と食品 3 食品とその特徴 第6章 食育と食育推進活動 2 食文化を見つめる	・ゼラチンの料理について体験し、温度と凝固とを関係づける。 ・家庭のおせち料理調査を報告する。 ・おせち料理の家庭実習に取り組み、説明する。		おせち料理を作って紹介しよう
第3学期	1	1 食育推進の取り組み 第2章 栄養素と食品 3 食品とその特徴	・おせち料理プレゼンを通して、日本の食文化について表現する。 ・卵を使った調理を実施し、希釈と凝固温度など幅広く活用を体験する。		食材の特長を生かした調理をしよう
	2	第6章 食育と食育推進活動 2 食文化を見つめる 3 食と環境について考えよう 第2章 栄養素と食品 3 食品とその特徴	・郷土料理の中の小麦粉の活用を記述する。 ・フェアトレード食品を味わい、消費行動と社会参加を関係づける。 ・味覚の効果について具体的に記述する。	学年末	持続可能な食生活につながる工夫をしよう
	3	実践編 献立と調理 行事食	・年度当初に作成した学びのデザインを振り返る。 ・一年間の学びをマイグラフィックシラバスで表現する。		身に付いた力を表現しよう

※行事等で変更になる場合があります。